

幕末政治と 立憲政体構想

幕末政治が抱え込んだ「内憂外患」のジレンマは、どのような構図だったか。その解決策を模索する幕府がたどり着いたのは、「四民共力」政策だった。

しかし、今度はそれを実現する政治や社会経済の仕組みが問題となり、立憲政体導入構想が登場してくる。

そして、これが幕末維新の激動の中で、どのように国家の意思となっていたかを追跡する。明治維新の基本線を「四民共力」から「四民平等」への過程として再検討してみたい。

お く だ は る き
奥 田 晴 樹

金沢大学 学校教育学類 教授

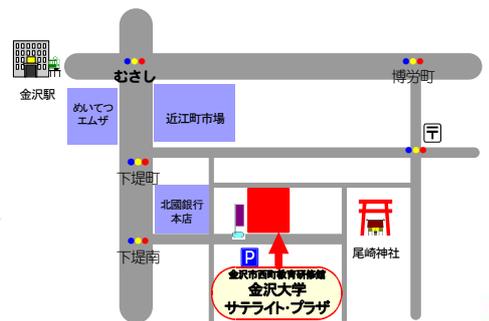
講師

日時

平成20年 6月 21 日(土)午後2時~3時30分

会場

金沢大学サテライト・プラザ
金沢市西町教育研修館内(西町3-16)



駐車場が大変混雑しますので、なるべく公共の交通機関をご利用ください。



金沢大学サテライト・プラザ

〒920-0913 金沢市西町3番丁16番地 TEL076-232-5343 FAX 076-232-5383

開設日時：平日 11:00~19:00 土・日・祝日 10:00~18:00

休館日：毎週火曜日、8/13~15, 年末年始 E-mail satellite@spacelan.ne.jp

URL <http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

ケータイはこちらから



入場無料

事前の申込は
必要ありません